

緒 言

黒坂昌弘

神戸大学大学院医学研究科・外科系講座・整形外科科学

本号では、整形外科医が直面する数ある臨床症例における問題の中で、最も解決策に苦心し、また治療成績上にも問題が残る軟骨損傷、変性などに対する治療を中心に軟骨再生の現状を誌上シンポジウムとして取り上げました。臨床の問題点に加えて、基礎的な将来的な展望に関しても、それぞれ第一線で活躍しておられる先生方に、最新の情報を提供していただきました。

軟骨の損傷は治癒しないとされており、加齢や種々の力学的環境の問題によって、今後ますますその頻度は増加の一途をたどると考えられます。過去の整形外科研究の歴史を見ても、本疾患に対する治療の開発、挑戦は枚挙にいとまがありません。疾患自体が軟骨の退行変性疾患であるため、治療にはアンチエイジングに対応するに等しい困難性があります。したがって、治療そのものがどれだけの効果を発揮しているのかの判定を含めて、客観的な効果判定には多くの問題を残していると言わざるを得ません。それでも近年の整形外科研究の進展で、種々の先進的な治療法も開発されています。本シンポジウムでは、種々の治療法を網羅して取り上げて、治療の問題点を浮き彫りにしています。

榎本宏之先生(慶應義塾大)には、医薬部外品として国民の関心の高いグルコサミンの経口投与による治療について解説いただきました。また、西田佳弘先生(名古屋大)には、現時点では、整形外科の外来治療として最も一般的な、ヒアルロン酸の関節内注射による治療について解説いただきました。種々の細胞を用いた軟骨再生医療は、多くの研究者の注目を集めていますが、実際の臨床応用になると、問題点も数多く残されています。安達伸生先生(広島大)、関矢一郎先生(東京医科歯科大)、黒田良祐先生(神戸大)には、将来展望も含めてこれらの治療について解説いただきました。また、現時点で臨床応用されており、整形外科手術治療の中で、重要な位置づけを獲得している治療に関しては、最も多くの臨床例を経験しておられる、松永大吾先生(長野松代総合病院)、中川泰彰先生(国立病院機構京都医療センター)、山口祐一郎先生(横浜市立大)に執筆いただきました。

本シンポジウムの内容は、現時点で最も治療が困難な軟骨損傷に対する治療の指針と将来性を提示する内容になっています。軟骨損傷という、古くて新しい問題の現況を十分読み取っていただければ幸いです。本企画が少しでも今後の軟骨損傷の治療に貢献できることを切望いたします。